

桜日和

— 特集 12〜17ページ —

春を美しく彩る「桜」。

日本を代表する木として広く親しまれ、

廿日市市内にも桜の名所が数多くあります。

昭和63年4月1日、廿日市市が県内では

13番目の市として制定されたこの年に

「市の木」として桜が選定されました。

誰もが快適に暮らして、豊かな文化が花開くまち。

廿日市の象徴として選ばれた桜。

今回は市内の桜にまつわる人とスポットを案内していきます。



廿日市の桜 1 吉和・花原

川面を悠々と泳ぐこいのぼりと桜
こいのぼりには、その家の思い出も詰まっています。



▲右から発案者の益本住夫さん(67)、(株)吉岡オートの岡本圭史(おかもと・けいじ)さん(35)、協力者の福井達三(ふくい・たつみ)さん(50)、(株)吉岡オートの三上孝司(みかみ・たかし)さん(44)と吉岡聡(よしおか・さとし)さん(36)。川向こうに並ぶ木は桜(ソメイヨシノ)。家庭で眠っているこいのぼりがあれば、ぜひ声を掛けてほしいとのことでした。

太田川にたなびく、30匹あま

りのこいのぼり。吉和を流れるこの川の新田尻橋付近では、毎年桜の咲く時期に色鮮やかなこいのぼりが川に渡されます。晴れ渡った日には、川面を泳ぐこいのぼり、そして川岸に咲く桜を一望することができます。

「昔前までは5月になると各家庭で、こいのぼりが上げられていました。今はこいのぼりをその時期に出す家も少なくなり、家の中で眠っているものも多かったです」と話してくれたのは、この行事の発案者の益

本住夫さん。

9年前、眠っていたこいのぼりを近くの家々から譲り受け、川渡しをするようになったといっています。こいのぼりを渡す川の幅は約40m。吊るすためのワイヤーを川岸の桜の木に掛け、対岸に渡すという大仕事を毎年こなしています。

「こいのぼりを渡すときは近くに住む顔見知り5、6人が協力して行います。また、ワイヤーを張った杭を地面に打つときには、近くで営業する吉岡オートの従業員の方にも手伝ってもらっています」。

昔、家であがっていたこいのぼりがまた空を泳ぐ姿は、好評を得て、懐かしむ人も多いそうです。こいのぼりは長いもので8mほど。古いものは木綿で作られ、丁寧に染められたものもあり、歴史を感じるとのこと。

「こいのぼりには、その家の思い出も詰まっています。1年に一度そうした思い出も含めて思い起こしてもらえればうれしいですね」と益本さん。また、国道186号からも桜とこいのぼりの姿が見えるため、その景色を見るため車を止める人もいるそうです。こいのぼりと桜を子どもの写真の背景にして、シャッターを押す姿も多く見受けられます。

「近隣の人に楽しんでもらい、応援してくれるからこそ続く行事です。なんといってもこいのぼりは子どものためのもの。吉和の子どもたちのためにも続けていきたいですね」と益本さんの顔に笑みが浮かびました。こいのぼりは毎年4月の2週目の土曜日から5月の2週目あたりまで泳ぎ、吉和を訪れる人の目を楽しませます。



平成26年4月16日撮影

毎週日曜日に新田尻橋付近では吉和の農産物などを販売する「花原青空市場」を開催。今年は初めて市場に合わせて「高瀬の鯉のぼり祭り」を開催予定。
とき 4月12日(日) 11時～
ところ 花原青空市場(新田尻橋付近)